

佳作

ありがとう

茨城県 水戸市立寿小学校五年 奥野 倫ノ介

「ありがとう。」

ぼくは、夏休みに、お父さんの働いている施設に、体験に行き、この言葉をたくさん言ってもらいました。

ぼくのお父さんは、高れい者の施設で働いています。そこに妹たちと一日体験に行きました。まず、食べ終わった食器をかた付け、おじいちゃん、おばあちゃんたちとお話をしながら、おしぼりをたたきました。たったそれだけのことなのに

「ありがとね、悪いね。」

と、頭をなでてくれました。そのあと、おふろの準備をしました。おふろは二種類あり、歩ける人が入れるおふろと、体が不自由な人が入れるおふろがありました。そのおふろは、すわったまま入れるおふろで、ぼくも体験させてもらいました。ぼくはその

時「らくだな、でも一人で入れた方が、もっと気持ちいいだろうな」と、思いました。しょうぞうさんというおじいちゃんが、おふろに入るとき、タオルをわたしてあげました。すると、しょうぞうさんは「おーありがとう。」

と、手をにぎってくれました。その後ぼくは、しょうぞうさんと、しょうぎをやりました。ぼくは、ボロ負けだったけど、しょうぞうさんは、

「強いね、うまいね。」

と、言ってくれました。しょうぞうさんは、耳が遠く、車イスに乗っていて、はなに管からさん素を送っています。ぼくの方がぜんぜん若いし、体も元気です。でも、しょうぞうさんは、その後も

「倫ノ介ばんざいばんざーい。」

と、ぼくの顔を見るたび、笑顔で言ってくれて、ぼくはとてもうれしくて元気が出ました。

一日の体験が終わり、おじいちゃん、おばあちゃんにあいさつしていると、みなさんが

「ありがとね、また来てね。」

と、何回も言ってくれました。ぼくは、何もしてないのに、こんなに何回も何回も、ありがとうという言葉も言ってもらえて、涙が出そうになりました。

人のやさしさや、あたたかさを、とても感じる事が
できた一日になりました。ぼくは、これからは、
「ありがとう」を、たくさん伝えて、みんなに元氣
をあたえられるような人間になりたいと思いました。